

## 育成料のあり方検討部会の中間報告について

### 1 スケジュール

	開催日	内容
第1回	5月21日	現状分析の報告・検討 意識調査（案）の提示
第2回	8月21日	意識調査結果の報告 意識調査結果を踏まえた育成料のあり方検討
第3回	11月19日	追加シミュレーションの提示 育成料のあり方検討の方向性の決定
第4回	1月下旬～ 2月上旬予定	答申（案）の決定

### 2 検討内容

#### ■ 第1回（5月21日）

##### 主な意見

- ・ 受益者負担割合を50%にするには育成料を値上げする必要があるが、値上げすると保護者の負担は増加するので、（値上げするなら）どのようにするかを考えなければならない。
- ・ 町田市が子育てにやさしい町として、町田市を選んでもらう上で、町田市は最高額の9,000円というのがすごくネックになる。

#### ■ 第2回（8月21日）

##### 主な意見

- ・ 育成料を増額し、支援員を増員したらいいのではないか。
- ・ 多摩23市の比較だけではなく、町田市の近隣自治体の育成料の状況も把握した上での検討が必要ではないか。
- ・ 他の自治体は、どうして（町田市より）育成料が安くできているのか疑問である。
- ・ 育成料を減額した場合だけではなく、増額した場合の受益者負担割合も確認した上での検討が必要ではないか。
- ・ 所得の区分に応じた減免はこのままでよいが、2子目の減免については金額を上げてもいいのではないか。

■ 第3回（11月19日）

主な意見

- ・ 育成料が現状維持で2026年には受益者負担割合が50%にいく見込みであれば、今のままでいいのではないか。
- ・ 町田市の育成料9,000円は、他の自治体を大きく離れた金額である。最低でも現状維持、できれば若干減額の意識が望ましい。
- ・ 子どもを持つ親として、このご時世で2人目以降の育成料が上がるというのは受け入れ難い。
- ・ 育成料を変更する上で、全ての市民から理解いただけるような理由が見当たらない。
- ・ 定期的に受益者負担割合が50%になっているのかを見ながら、上げる、下げるという議論のほうが説明しやすい。

3 育成料あり方の方向性

1 受益者負担割合の適正化 【図1】

- ・ 2023年現在44.3%と、育成料を改正した2018年以降上昇している。
- ・ 町田市の適正值である50%に近づいている。

2 他市との比較 【図2】

- ・ 近隣市と育成料を比較すると、入会できる学年の条件が異なるものの、町田市が最高額である。
- ・ 所得に応じた減免区分や子どもが多い世帯への減免は、町田市の特徴である。

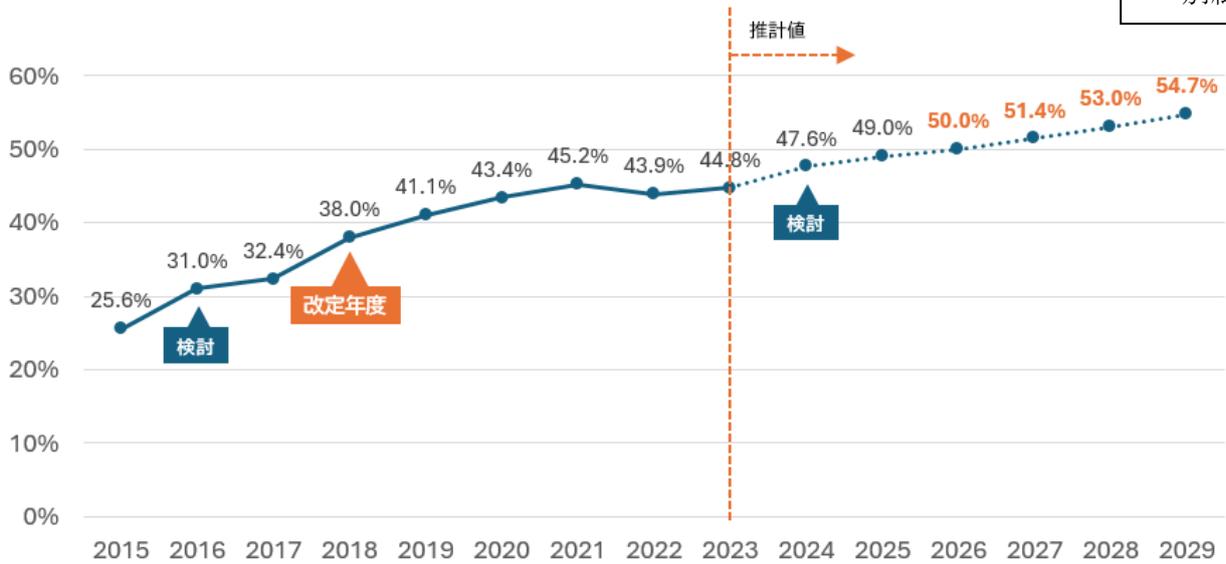
3 保護者からの意見 【図3】

- ・ 市内の小学生の保護者を対象に実施したWebアンケート（回答数：2,915件）では、学童保育クラブへの入会の有無にかかわらず、「減額した方が良い」もしくは「改定の必要はない」が多くを占める。

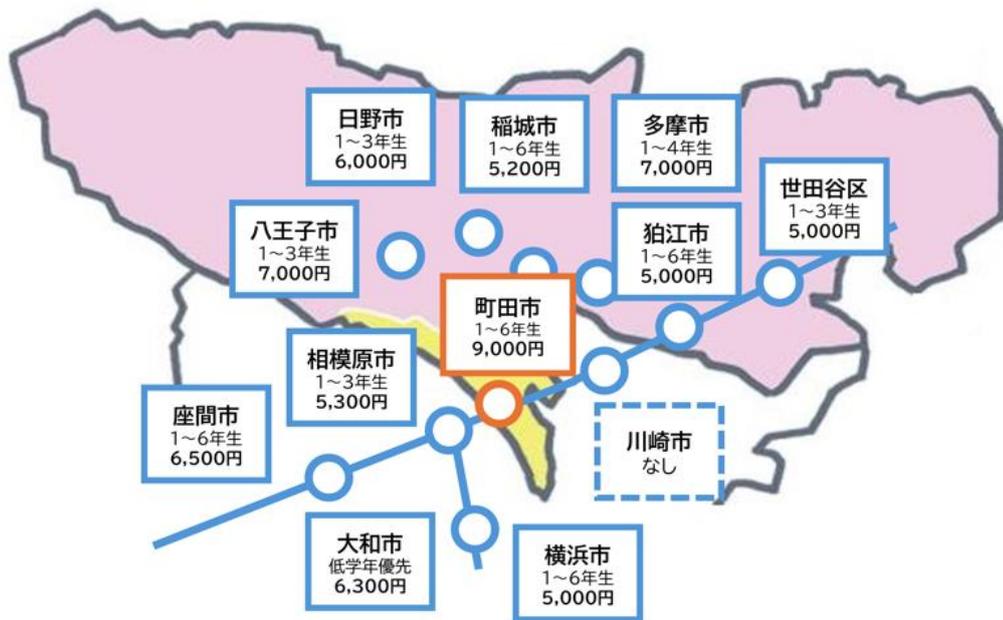
4 国や東京都の傾向

- ・ 育成料に直接関係するものではないが、保育料、医療費、学費など、子育てにかかる費用負担を軽減する動きがある。

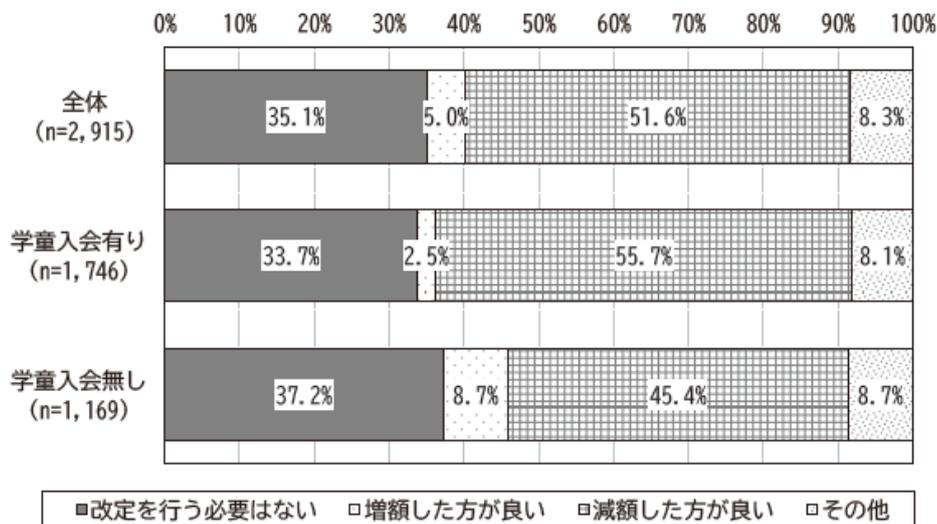
- ・ 育成料は改定せず、現状維持とする  
(次の見直しのタイミングは、第4回検討部会で検討する)



■ 図1 育成料の受益者負担割合推計



■ 図2 育成料の近隣自治体との比較



■ 図3 育成料を改定する場合の考え方 (意識調査結果)